

“エコ” ロジカルな心理学

～ “みやすい” を科学する～

システム工学専攻 人間工学研究室 生理心理研究グループ

場所：ポスター展示会場

私たちは毎日、コンピュータに囲まれて生活しています。情報科学の進歩によって、様々な場面で私たちはコンピュータから多くの情報を瞬時に受け取らなければならなくなりました。私たちの研究グループでは多くの情報をストレスなく瞬時に理解するためのインタフェースについての研究をおこなっています。

“エコ” ロジカルな心理学 (Ecological Psychology : 生態学的心理学)



人間が瞬間的に正確に受け取ることができる情報の数はせいぜい、3-5個しかありません。そこで、私たちの知覚能力を拡大するためには、今までの理論を越えた、新しい情報提示方法を考える必要があります。

アメリカの心理学者James Jerome Gibson (1904-1979)という人は**Affordance**(「まわり」に潜んでいる意味)という考え方を提案しました。彼は生き物は皆、提示された情報だけを手掛かりに世界を知覚してはいない、と考えました。しかし彼の死後、多くの研究者がこの「まわり」に潜んでいる意味を探し求めました。

しかし、「これだ!」という結論には至っていません。

そこで、私たちの研究グループでは、情報の「まわり」に潜んでいる意味を「言葉で現わすことができない情報」と考えて、日々、研究しております。



物理的には存在しない何かを記憶する～錯視図形の場合～

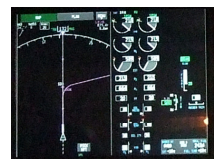
昔の飛行機の計器はクルクルと指針が“動く”ことで情報を伝えていました(アナログ式)。しかし、IT化したコックピットではφ現象という人間の視覚特性(錯視)を利用し、液晶画面上に時々刻々と変化する図間の差分として情報が表示されます。

私たちは、錯視現象を利用した時の図形の記憶特性について研究しています

1/80ms前との差分で情報を伝えます

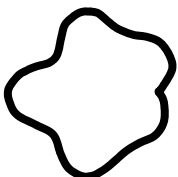


アナログ式



液晶画面に表示

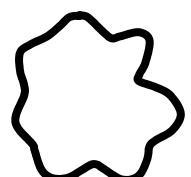
言葉で記憶できない形を記憶する～無意味輪郭図形の場合～



アメーバー?

左の図形、あなたは何に見えますか? アメーバー? それとも、どこかの島の形? では右の図形はどうでしょう? やはり“アメーバー”に見えますか?

心理学や生理学の研究手法を用いた私たちの研究から、言葉を使って表現できない図形でも、私たちは言葉を利用



島?

せず、非言語情報として“形”を同時に3-5個程度は記憶できることがわかってきました。